

協働による環境学習推進事業

1 事業の概要

ごみ処理や景観などの身近な問題から地球規模の環境問題に至るまで、幅広く複雑多岐にわたる環境問題の解決には、県民一人ひとりの参加と多様な主体の協働による取組を地域において進めることが大切です。そのため、県では、地域のNPO等環境団体との意見交換や効果的な環境学習の企画提案の場として平成20年に設置した「岡山県環境学習協働推進広場」を基盤に、広場の登録講師を派遣して行う環境学習出前講座など、関係団体と行政との協働による環境学習を推進しています。

2 平成28年度実績

- ・環境学習出前講座の実施 311件
(温暖化54回、エネルギー62件、自然98件、ごみ71件、持続可能な社会7件、その他19件)
- ・環境学習指導者養成講座の実施 54回
基礎講座1回、OJT研修52回、基礎講座(実践編)1回
- ・おかやま環境教育ミーティングの開催 参加者 158人
(8/17、岡山コンベンションセンター)
環境学習指導者、学校関係者、企業、環境NPO等の多様な主体が協働するきっかけをつくる場として実施



<環境学習出前講座>



<おかやま環境教育ミーティング>

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

環境学習エコツアー事業

1 事業の概要

環境問題に対する正しい理解と環境意識の高揚を図るため、小中学生や地域団体等を対象に、環境関係施設を見学、体験する「環境学習エコツアー」を実施しています。

2 平成28年度実績

参加者 3,611人（団体向け3,505人、個人向け106人）



<自然体験コース>
キリンビアパーク岡山見学



<児島湖・海コース>
児島湖クルーズ船内

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

アースキーパーメンバーシップ推進事業

1 事業の概要

地球温暖化を防ぐため、地球にやさしい生活に取り組む人たちを、「アースキーパー（地球を守る人）」として会員登録する制度で、会員がそれぞれの目標に取り組んだ1年間の取組結果（CO2削減量）を計算し、お知らせします。

また、会員が集まり、エコワークショップやエコ講座等を楽しむ「アースキーパーのつどい」を開催します。

2 平成28年度実績

会員数 11,918人（県民版11,349人、事業所版569人）

アースキーパーのつどい2016の開催 参加者 282人

（12/18、岡山コンベンションセンター）



<アースキーパーのつどい2016>

- ・恐竜くんトークショー
（温暖化などの気候変動が生物の絶滅を引き起こすことについての講話等）
- ・ワークショップ
エコなものづくり体験

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

地球温暖化防止活動推進員支援事業

1 事業の概要

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、県では、地球温暖化に関する現状・知識の普及、対策の推進を図るため平成14年から「地球温暖化防止活動推進員」を委嘱しています。

県下で活動している推進員は79名（平成28年度末現在）で、地球温暖化防止や環境保全、ゴミ・リサイクルなどの分野について、それぞれの地域や学校での講師活動や啓発イベントの手伝い、その他の普及啓発活動等にボランティアとして取り組んでおり、県では推進員研修会の実施等によりその活動を支援しています。

2 平成28年度実績

- ・推進員研修の実施 2回（11/1、3/10）
- ・啓発関係資材等の整備（うちわ・パンフ作成）



<推進員研修>

バイオマス・プラントの見学

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

エコアクション21認証取得支援事業

1 事業の概要

事業者がエコアクション21の認証・登録を受け、温室効果ガスや廃棄物の排出量削減等の環境負荷を低減する取組を支援するため、県ではエコアクション21の認証取得費用の一部を補助する「岡山県エコアクション21認証取得支援事業補助金」を平成28年度に創設しました。

エコアクション21は、環境省が定めた環境マネジメントシステムで、国際規格のISO14001に比べ、中小事業者にも取り組みやすいのが特長です。省エネを中心に節水や廃棄物削減などに取り組み、経費削減効果も期待でき、県入札参加資格の加点等の優遇措置が受けられます。全国で約7,800事業者、県内で約100事業者が認証・登録を受けています。

2 平成28年度実績

- ・ 交付実績

1,555,000円（16事業者）

- ・ 補助対象

県内に事業所を有し、エコアクション21の新規認証・登録を受けた事業者へ、認証・登録に係る審査費用、認証・登録料の1/2（上限10万円）を補助

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

児島湖ヨシの刈取り・リサイクル事業

1 事業の概要

ヨシ群落は、児島湖の鳥類・魚類の繁殖の場として重要な役割を担っており、このヨシ群落を良好な状態に保つためには、冬季に枯れた茎を刈り取って株の再生を促すことが必要です。また、湖水に含まれる窒素やリンを吸収して成長したヨシを冬季に刈り取り、湖外へ持ち出すことが児島湖の水質保全に役立ちます。

そこで、ヨシの刈取り及びごみの回収作業を行うとともに、刈り取ったヨシは廃棄物として単に処分するのではなく、リサイクルし、有効に活用しました。

また、県内の児童・生徒が、ヨシの刈取りやリサイクルを体験する機会を設けました。

2 平成28年度実績

(1) ヨシの刈取り及びごみの回収

①ヨシの刈取り

区 域	面積 (m ²)	重量 (kg)
灘崎北七区	30,990	32,000
八浜・水鳥親水公園	900	1,600
合 計	31,890	33,600

②ごみの回収

分 類	可燃物	ガラスくず	空き缶	廃プラスチック類	合計
数量 (kg)	260	60	30	40	390

<ヨシの刈取り>



<ごみの回収>



(2) ヨシを活用したリサイクル品

刈り取ったヨシは、果樹農園等でマルチング材^{*}や堆肥として再生利用しました。

また、刈り取ったヨシを材料にしたヨシ紙製の回覧板を作成し、児島湖周辺の町内会に配付し、児島湖やヨシの浄化作用に対する関心を高めました。

^{*}マルチング材・・・土表面に敷き詰め、土の乾燥や雑草の繁殖を防ぐ資材

再生利用の用途	ヨシの使用量 (kg)
マルチング材	26,800
千両ナス栽培 (堆肥等)	5,800
回覧板作製用紙	1,000
合計	33,600

〈マルチング材として利用したピオーネ農園〉



〈ヨシ紙で作成した回覧板〉



(3) ヨシの刈取り体験・工作体験

児島湖に親しんでもらうとともに、廃棄物のリサイクルなど環境保全に関する関心を高めるために、高校生を対象にしたヨシの刈取り体験を、また小学生を対象にしたヨシを利用した工作体験を実施しました。

① ヨシ刈り体験

「環境に配慮したものづくり」に取り組んでいる、岡山県立津山工業高等学校工業化学科の1年生40名の皆さんが、ヨシの刈取りを体験しました。

また、ヨシを刈り取った場所に散乱していたごみを回収しました。

〈ヨシ刈り体験を行う津山工業高校の皆さん〉



〈回収したごみ〉



② 工作体験

小学生の皆さんに、刈り取ったヨシを利用したヨシ笛や額縁、灯籠などの工作に取り組んでももらいました。

学校名	学 年	参加児童	備 考
岡山市立七区小学校	3 年生	20 名	—
玉野市立大崎小学校	3 年生	18 名	—
玉野市立八浜小学校	4 年生	26 名	—
真庭市立川東小学校	4 年生	19 名	参観日での実施のため保護者 19 名も参加

〈ヨシの工作を行う八浜小学校の皆さん〉



〈ヨシを使った灯籠〉



【担当部署】 環境文化部 環境管理課 水環境湖沼保全班

ごみゼロ社会推進事業（プロジェクト推進会議）

1 事業の概要

県内の廃棄物の発生抑制、再使用及び再利用を県民総ぐるみで推進するために設置した岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議により、各種計画の策定及び施策の企画立案等を行う。

2 平成28年度実績

平成28年4月25日 委員17名が出席し、第1回会議を開催した。

議題：Ⅰ 平成27年度の取組実績について

1 会議の開催

2 重点取組事業

(1) おかやま・もったいない運動の推進

(2) マイバッグ運動の推進・レジ袋削減事業の実施

3 その他普及啓発事業

Ⅱ 平成28年度の取組（案）について

1 会議の開催

2 重点取組事業

(1) おかやま・もったいない運動の推進

(2) マイバッグ運動の推進・レジ袋削減事業の実施

3 その他普及啓発事業



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

ごみゼロ社会推進事業（岡山県エコ製品の認定・PR）

1. 事業の概要

岡山県循環型社会形成推進条例第23条に基づき、平成14年10月に策定した「岡山県再生品の使用促進に関する指針」の周知徹底を図るとともに、条例に基づき創設した岡山県エコ製品認定制度の適正な運用を図ることにより、再生品の需要を喚起し、資源の循環的な利用を促進します。

2. 平成28年度実績

○岡山県エコ製品の認定等

グリーン購入対策会議を年2回（8月、2月）開催し、岡山県エコ製品の認定や品目の追加を行っています。

認定件数 364件 平成29年3月31日時点

○岡山県エコ製品等再生品の普及

巡回エコ製品等普及展示会等のイベントの開催、県の環境イベントでのPR、岡山県のホームページへの掲載、広報誌によるPR、認定製品リストの作成・配布等により、再生品のPRに努めるとともに、岡山県エコ製品をはじめとする再生品の使用を県民、事業者及び市町村へ働きかけます。

① 環境イベント等での展示会

- ・6月12日 親子エコフェスタ2016
- ・7月14日 フレッシュオールスターゲーム2016（マスカットスタジアム）
- ・10月2日 吉備高原フェスタ in 吉備中央町
- ・10月30日 笠岡環境フェスティバル
- ・11月15日 中四国環境ビジネスネット B-net フォーラム2016
- ・1月18、19日 岡山テクノロジー展2017
- ・常設展示（テクノサポート岡山）

②エコ製品リストの作成



エコ製品・エコ事業所リスト



エコ製品認定マーク

担当部署 環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

おかやま・もったいない運動推進事業

1 事業の概要

「もったいない」をキーワードとして、循環型社会の形成に向けた「3R」（発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））についての県民一人ひとりの意識改革と実践行動を促すため、「おかやま・もったいない運動」を推進する。

2 平成28年度実績

① 「おかやま・もったいない運動」推進フォーラム

- ぐらしき環境フェスティバル
日 時：平成28年6月4日（土） 9時30分～16時
場 所：水島愛あいサロン [倉敷市水島東千鳥町1-50]
内 容：体験コーナー、展示コーナー、クイズラリー
来場者数：3,500人
- 「親子エコフェスタ2016」
～地球の未来を守ろう みんなで3R！～
日 時：平成28年6月12日（日） 10時30分～15時30分
場 所：アルネ津山及び津山市中心商店街 [津山市新魚町17他]
内 容：体験コーナー、展示コーナー
来場者数：約1,200人
- 「もったいないホテルバスツアー2016」
日 時：平成28年6月18日（土） 19時30分～22時
場 所：北房文化センター及びほたる公園周辺
[真庭市上水田3131他]
内 容：4Rについての講演等
参加者数：120人（事前予約制）
- 第12回わっしょい和んさか吉備高原フェスタ
日 時：平成28年10月2日（日） 10時～16時
場 所：吉備高原都市センター区 さんさん広場周辺
[吉備中央町吉川4860-6]
内 容：「もったいない」トーク、エコバッグ配布、体験コーナー、
展示コーナー等
来場者数：約40,000人

- 笠岡市環境フェスティバル

日 時：平成 28 年 10 月 29 日（土） 10 時～15 時
 場 所：笠岡市民会館[笠岡市六番町 1-10]
 内 容：体験コーナー、展示コーナー、スタンプラリー等
 来場者数：約 1,000 人
- くるりんクルクル～省資源・省エネルギー展～

日 時：平成 28 年 10 月 30 日（日） 9 時 30 分～15 時
 場 所：玉野市リサイクルプラザ[玉野市槌ヶ原 3072-1]
 内 容：「もったいない落語」、体験コーナー、展示コーナー、
 スタンプラリー等
 来場者数：約 400 人
- おひなさまフェスタ

日 時：平成 29 年 2 月 26 日（日）～3 月 3 日（金）
 場 所：リサイクルプラザ・おく[瀬戸内市邑久町尾張 483-6]
 内 容：手作り体験コーナー、リサイクル品を活用したおひなさま等
 の展示、パネル展示等
 来場者数：約 800 人

<おかやま・もったいない運動推進フォーラム>



②おかやま・もったいない！小学生ポスター（絵画）コンクールの開催

応募数 80校、749作品

③おかやま・もったいない！小学生ファミリーエコチャレンジコンテストの開催

応募数 14校、395点

<おかやま・もったいない各種コンテスト作品展示会>



<おかやま・もったいない各種コンテスト表彰式>



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

エコライフ推進事業

1 事業の概要

自らのライフスタイルを見直し、家庭ごみの排出抑制（Reduce）を図る契機とするため、買い物にマイバッグを持参し、レジ袋の受取を辞退する普及啓発活動を推進する。

2 平成28年度実績

① 岡山県統一ノーレジ袋デーの取組

- ・毎月10日を「岡山県統一ノーレジ袋デー」と定め、事業者、消費者・環境団体、市町村と協働で、買い物の際に「レジ袋を受け取らないようにする運動」を展開し、レジ袋削減に対する県民意識の向上を図る取組を実施した。

参加店舗数 1, 553店舗（平成29年4月1日現在）

レジ袋辞退率 24.8%（平成29年2月現在）

- ・事業者へレジ袋辞退カード、ポスター、ステッカー等の啓発資材を送付した。
- ・若年層への啓発として小学4年生へクリアファイル配布、大学入学式・成人式にチラシやエコバッグを配布した。

- ・6月及び11月のおかやまマイバッグキャンペーンでの啓発活動を実施するとともに、県及び各市町村発行の広報紙等において広報を行った。
- ・マイバッグ持参率等を把握するため、平成29年1月～3月に、県内15店舗でマイバッグ持参率等アンケート調査を実施した。

マイバッグ持参率 46.4%

レジ袋が有料になった場合、「マイバッグを持って行く」と答えた人の割合 73.7%

<街頭啓発>



J R岡山駅前（6月10日）

高梁市（11月10日）

② マイバッグチャレンジャー事業

● 目的：

幼稚園児には、マイバッグを使った買い物の仕方を体験することにより、保護者には「マイバッグ持参」の意義を理解していただくことにより、ごみの減量化、地球温暖化防止につながる環境に配慮した暮らし方について、家庭で取り組むきっかけとする。

● 日時：平成28年11月21日（月）14:00～15:00

● 実施場所：イオン岡山 1階「イオンスタイル」食料品売り場

● 参加者数：幼稚園児 17名・保護者 16名

● 実施方法：（保護者は適宜補助）

- ・買い物用のマイバッグは当日参加園児に一人1袋配布する。
 - ・店内用のかごを持ち、マイバッグは折りたたんだままで持つ。
 - ・200円以内の商品をかごに入れる。（購入商品は自由・費用は参加者負担）
 - ・レジに持って行き「レジ袋はご入り用ですか」と聞かれたら「レジ袋はいりません」と答える。
 - ・お金を払い、商品を自分でマイバッグに入れる。
- ### ● 保護者の感想：
- ・子どもがごみについて知るいい機会になった。
 - ・保護者自身、買い物時にマイバッグを持参しようと思った。
 - ・マイバッグや食品ロスについて知るいい機会となった。 等



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

里海保全活動支援事業（海面アダプト事業）

1 事業の概要

(1) 趣 旨

瀬戸内海の環境保全を推進することを目的に、平成15年度から海洋レジャー関係の団体等が行う海面の清掃美化活動に対して支援しています。

(2) 方 法

活動団体、地元市と県の3者で活動にかかる合意書の締結を行ったうえで、活動団体が船舶を使用して海面に浮遊しているごみを回収し、地元市の支援のもとに処分します。県は、清掃活動に必要な清掃用具の購入費等について助成しています。

2 平成28年度実績

(1) 活動実績

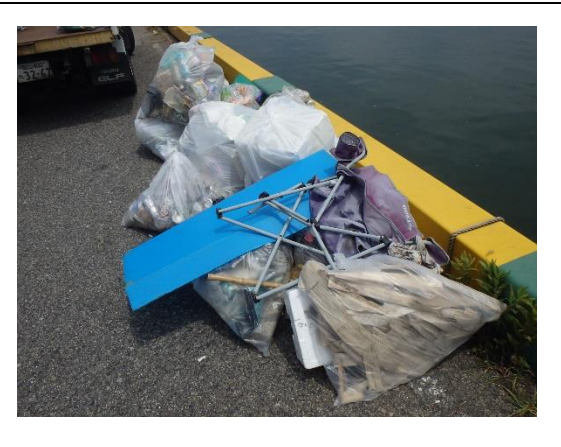
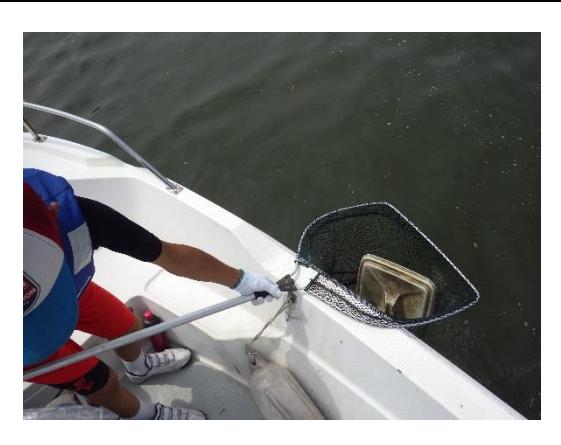
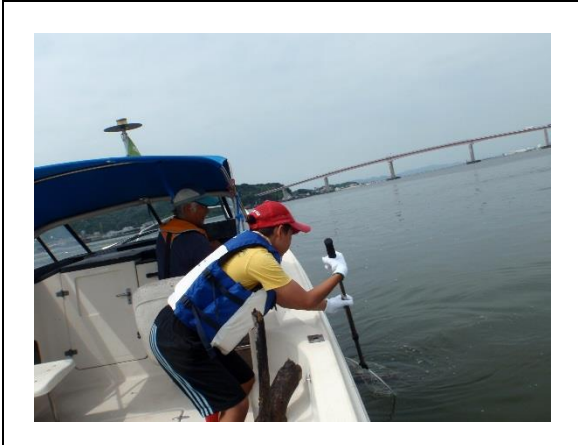
活動団体	活動日時	活動場所	活動結果
岡山県東部地区小型 船安全協会（岡山市）	7月22日（金）	岡山港周辺海域	延べ30名
	9月30日（金）		延べ 7隻
岡山県西部地区小型 船安全協会（倉敷市）	7月22日（金）	水島港（玉島地 区）周辺海域	延べ20名
	9月30日（金）		延べ10隻

(2) 回収したゴミの概要

① ごみの量：2トン車4台分

② ごみの内訳

項 目	流木・草	ビニール・発泡スチロール	ペットボトル	缶・ビン	その他
割合(%)	57	21	11	7	5



担当部署

農林水産部 水産課 振興班

海底ごみ適正処理体制構築事業

1 事業の概要

平成15年度から、沿岸漁業者、沿岸漁業協同組合及び地元市と連携して海底ごみの回収・処理の責任分担の明確化、適正処理体制の構築に取り組み、これまで沿岸7市に14基の海底ごみステーションを設置し、漁業者の作業中に入網した海底ごみの回収を行ってきましたが、より一層活動を推進するため、新規ステーションの設置及び回収活動の取組拡大を行います。

2 平成28年度実績

海底ごみステーションの新設

黒崎連島漁業協同組合の海底ごみステーション2基の新設に対し、その経費の一部を補助しました。



(小原地区)



(沙美地区)

海底ごみステーション

担当部署

農林水産部 水産課 振興班

スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業

1. 事業の概要

廃棄物のリサイクル技術の研究・開発など環境教育を重点的に行う学校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、課題に気づき、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図るとともに、環境教育に関する教材を開発しています。

2. 研究開発実施校

○岡山工業高等学校（平成22～24年度）

校内や地域から出るコンクリートなどの廃棄物をリサイクルして、再生コンクリートを製造する研究に取り組んでいます。

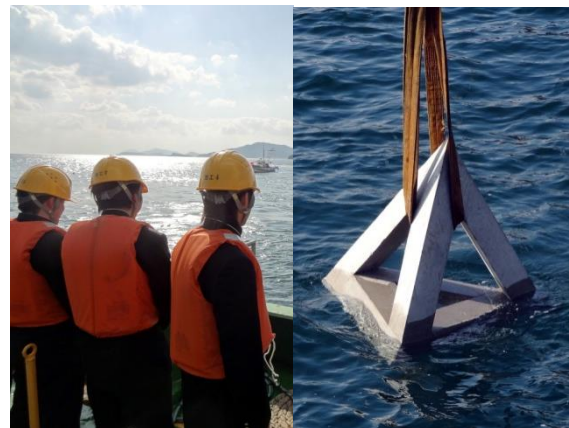
平成24年度は、製造した再生コンクリートを使ったベンチやテーブルなどの製品を、地域の小学校や幼稚園へ寄贈するなど、啓発活動に取り組みました。



○笠岡工業高等学校（平成22～24年度）

岡山県の特産品であるカキの殻を原料として、魚礁ブロックやアマモ養殖板を製造する研究に取り組んでいます。

平成24年度は、大学と連携して製造した魚礁ブロックを、地域の漁業協同組合と連携して笠岡沖に設置しました。さらに、海の現状の調査、アマモ養殖板の実用試験などに取り組んでいます。



○高梁城南高等学校（平成24～26年度）

ヒラタケ等の菌床栽培によって発生する廃オガクズを、ペレットストーブの燃料や、日本の伝統建材である三和土（たたき）や漆喰（しっくい）の材料として再利用する研究に取り組んでいます。

平成26年度は、三和土を用いた床面施工を行い、交流温室を完成させました。この温室を近隣の幼稚園児に開放したり、生産物の販売実習を行ったりすることで、教育における循環型社会の推進に取り組んでいます。



○津山工業高等学校（平成27～29年度）

ESDの視点から地域の資源であるバイオマスの有効利用や生活廃油をリサイクルできる移動式の石鹼製造プラントを活用した出前授業を実施するなど、地域の活性化や資源の有効活用に取り組むことができる人材育成に取り組んでいます。

平成28年度は、荒廃した竹林を整備し、粉碎した竹チップをバイオマス燃料や牛舎敷料としての利用を地域の農家の方や津山市と協働して取り組みました。牛舎敷料は土質改良材として循環型資源活用の検証を行う予定です。



担当部署

教育庁 高校教育課 職業指導班